

MUSABI *information*

Musashino Art University Information

August 2022

特集 1

ムサビの社会連携活動

特集 2

在学生保護者向け教育懇談会

4 学科紹介 [油絵学科油絵専攻]

6 授業紹介

7 卒業生紹介

10 インフォメーション

11 本学関連施設展覧会情報

12 2022年度学事予定/お問い合わせ先





特集 1

ムサビの社会連携活動

本学では企業や自治体、諸団体と連携したプロジェクトを数多く展開しています。

美術大学ならではの実践的な産学連携をはじめ、地域の大学や高校、コミュニティとの連携を強化し、地域における人材育成や産業振興、文化振興に寄与する活動も実施しています。

新たな高大接続の推進や国内外の大学や機関との交流・提携にも積極的に取り組み、本学の造形教育と教養教育で培われる創造的思考力を用いた、新たな社会価値創造に向けた挑戦に力を入れています。

初等・中等教育への美術振興

旅するムサビプロジェクト

旅するムサビプロジェクト（通称：旅ムサ）は、学生が全国各地の小中学校を訪れ授業を実施する取り組みです。美術館がない地域で中学美術教諭をされている本学卒業生からの「生徒に本物の美術作品を見せたい!」という依頼に対して、学生の作品を学校に持ち込んで鑑賞授業を行ったことを契機に2008年にスタートしました。旅するムサビプロジェクトでは、学生が制作した作品を持参し、子どもたちと対話して鑑賞する「対話型鑑賞」を中心に、黒板に絵を描き子どもたちを驚かす「黒板ジャ

ック」、空き教室を利用した「公開制作」や創造活動を行う「ワークショップ」など、既存の授業では実施しにくい美術教育活動を展開しています。この活動は、美術の楽しさや多様性を子どもたちに伝えると共に、学生自身のコミュニケーション能力やファシリテーション能力の向上、そして現場教員の研修や授業改善に大きな成果を出し、関係者全員が共に学び合うという、これからの美術教育の可能性を提案する取り組みです。

これらは学生の自主的な活動であり、10年以上続く実績が評価され「2017年度グッドデザイン賞」を受賞しました。「教育・推進・支援手法」の分類では美術大学として初の受賞となりました。

左：対話型鑑賞
中：黒板ジャック
右：公開制作



社会・企業・地域との連携

「かつお節とだし」の価値を捉え直し

新たなパッケージを開発・商品化

本学、大日本印刷株式会社、マルトモ株式会社が連携して「かつお節とだし」の価値を若い感性で捉え直すことで、かつお節商品の新たなパッケージ開発を行いました。有志の学生10名は「かつお節とだし」や和食文化に関する特別講義、パッケージデザインの講義、ワークショップなどを経て、かつお節の価値の再発見と利用機会の増大を期待した新商品のパッケージデザインに取り組みました。最優秀作品に選抜されたデザインはマルトモの新商品「花かつお」に採用され、2022年9月に期間限定商品として発売予定です。



「PLAY! PARK」で子ども向けの大型遊具を企画・制作

東京・立川市の複合文化施設「PLAY!」内にある「PLAY! PARK」は、さまざまなクリエイターが手がけた大型遊具で遊ぶことができる子どものための屋内広場です。空間演出デザイン学科の津村耕佑教授監修のもと、学生19名が参加したアートプロジェクト「Let's! PLAY! PUTIPUTI!」では、緩衝材として使われている通称「プチプチ®」（気泡緩衝材）をモチーフにした遊具を制作しました。学生が主体となり2ヵ月かけて企画、制作、設置を行い、2021年9月から2022年4月まで同スペースで展開されたほか、期間中には子ども向けのワークショップや関連イベントも実施されました。



大学連携等

他大学との教育研究交流

東京工業大学、電気通信大学、津田塾大学の各大学と、合同授業実施や研究協力推進、施設の相互利用、学生交流などを含む教育研究に関する協定を締結し、新たな事業の展開や、地域社会ひいては国際社会の発展に寄与する教育研究交流を推進しています。

早稲田大学との学生交流制度

教員・学生の交流、共同研究の実施、図書館の相互利用などを含む学術交流に関する協定を締結し、2001年度から学生交流を行っています。学部2年生以上を対象とした特別聴講学生の制度では、早稲田大学が提供する科目を選択履修でき、修得した単位は本学の単位として、卒業所要単位数に算入することができます。

多摩アカデミックコンソーシアム

多摩アカデミックコンソーシアム（Tama Academic Consortium=TAC）は、多摩地区にキャンパスをもつ国際基督教大学（ICU）、国立音楽大学、東京経済大学、東京外国語大学、津田塾大学と本学の6大学による大学協力機構です。それぞれの専門分野を生かし、単位互換制度や図書館の相互利用、学生・教職員の交流など、多彩な活動を展開しています。

東京工業大学との合同ワークショップ

「コンセプト・デザインング」

東京工業大学と本学が合同で開催している「コンセプト・デザインング」は、大学混合編成グループで進める造形ワークショップです。ひとつのテーマに対してグループワークによってコンセプトを構築し、最終日には造形デザインを伴ったプレゼンテーションを行います。



社会連携活動に関する詳細は、下記webサイトをご確認ください。



左：大学webサイト
右：デザイン・ラウンジサイト

学科紹介

本誌では、毎号一つの学科を取り上げ、その学科内で行われている授業やアトリエ・工房等の施設、所属教員をご紹介します。

油絵学科油絵専攻

「古典から未知の絵画へ」油絵学科油絵専攻の最も大きなテーマは、古今の絵画表現を広く研究し、その可能性を積極的に切り拓いていこうとするものです。絵を描くこと、さらにそこから派生した立体的な表現やインスタレーション、アニメや映像表現ほか、絵画から派生したさまざまな表現領域に及ぶすべてが、現代における絵画であると私達は考えます。この大きな広がりのある絵画をあらゆる角度から研究していこうというのが油絵学科です。

授業紹介（絵画基礎Ⅳ、空間と構造）

2年生の「絵画基礎Ⅳ、空間と構造」では選択課題のなかの一つとして「昭和のポピュラー音楽を聴きながら」というテーマで授業を行いました。本学の図書館には、日本のポピュラー音楽批評の礎を築いた「中村とうようコレクション」が収蔵されています。この膨大なコレクションのなかから昭和ポピュラー音楽数曲を選び、実際に学生に聴いてもらいます。（蓄音器やプレーヤーでレコードを聴きました）その数曲のなかから各自一曲を選び、作品制作のためのモチーフとしました。ただ、一曲の印象を絵画化するのではなく、各自がそれぞれの感覚や認識、知識を通じて選んだ音楽を自由に解釈し、捉えてみるという課題です。一つの完成された音楽を別の表現に置き換えてみることで、表現物に潜む様々な要素を理解し、新たに自分なりの表現を構築することを試みるもので、作品を構築する上で大切な要素に気づくための課題です。



江利チエミの歌うテネシーワルツを聴いて曲想から得られた色彩や歌詞から得られた場面を絵画化している。真ん中に折目を入れ、音楽に合わせて、本のようにページをめくる方法も考えられている。（竹内歩 2020年）



YMOのテクノポリスを抽象的な絵画として壁に直接に描いた。（永田茉那 2020年）

施設紹介

油絵学科油絵専攻の授業は、2号館、4号館、5A号館、5C号館、5B号館のアトリエで行われます。



上：2号館の2年生のアトリエ
下：4号館の1年生のアトリエ



山下達郎のblue velvetから生み出された作品。音楽の波長をそのまま記録し、曲想に合わせて色彩を変化させている。（松本侃 2020年）

油絵学科専任教員

赤塚祐二 教授

教員メッセージ

油絵学科では、作品への対話や講評によって学生の美術表現への理解を深めていきます。1-2年次の間は選択課題とし、カリキュラムの流れに沿ったさまざまなレベルの課題を通して基礎力を養います。それらの課題には美術史的な内容のものや、絵画を理解し基礎力を身につけるためのもの、さらには最先端の美術の動向をわかりやすく課題の形に置き換えたものなどあり、学生たちはそこから自由に選択し制作します。自身の興味で選択した課題によって、多様で奥深い美術の広がりを知らず知らずのうちに身につけていくのです。油絵学科1-2年次においては、急がず、学生それぞれの興味と自主性によって基礎的な力を身につけていってほしいと願っています。教員と学生という関係ではありますが、課題によっては、学生を共に研究してくれる共同研究者のように感じたりもしますし、あるいは先輩作家として、同じ道を歩む者の悩みを共有することもあります。

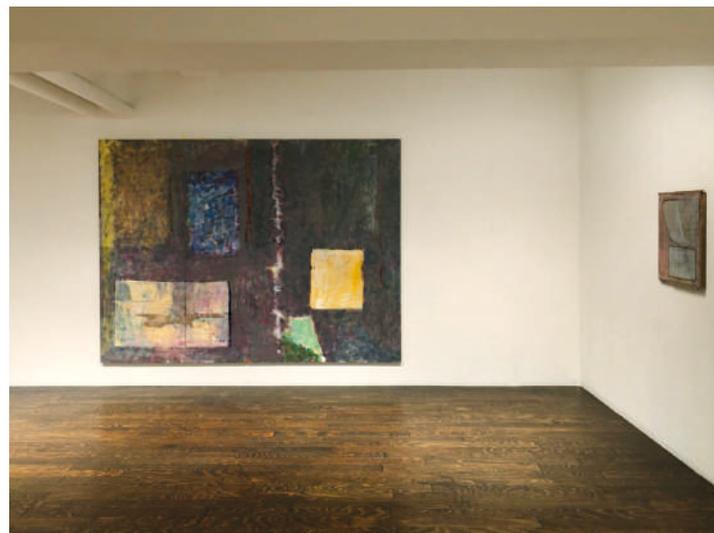
3-4年次になりますと専門の期間になり、学生はコースやゼミに分かれ、教員とのより深い対話が始まります。私の専門は絵画ですが、学生一人一人の資質を土台にした表現力に期待し、学生本人がその持ち味に気づき、自身の力で伸ばして行けるよう手助けできればと考えています。この領域は大きく長い時を経て続いてきただけに、幅が広く、さまざまな困難に満ちています。しかし悩みや困難のなかに次への展開が隠されていることが多々あり、悩むことこそが可能性でもあるのです。

教員の研究内容

私は主に絵画を研究制作しています。制作するとき、はじめは何気なくそこらに散歩に出かけるような気持ちで絵を描き始めます。いきなり絵画を表現しようとして近づいていくのではなく、このあたりを進もうかなという感じで気楽に始めてみるのです。はじめから全体を意識しないで、小さな一呼吸ほどの作業をしばらく続けることが重要だと感じています。そして描き進むうちにだいたいいつも、最初のイメージから遠く離れてしまつて画面はあり得ないような事態になり、手も足も出ないような難しさに至るのですが、しかしそんな状況のなかあれこれもがいているうちに、最終的に、当初の自分には思いもよらなかった魅力的な場面にたどり着くことがあります。この時ほど嬉しいことはありません。絵画を含め表現という領域は、その制作の段階において、材料や状況や偶然の力などにより、あらかじめ自分の求めているものとは少し異なる、本来思っていることとは少し違う状況を進んで行くようです。そこには何か目的の山とは違う別の山に登ってしまった登山家のような、あれっという感覚もあるのですが、意外にも、ここが自分の求めている場所ではないかと気づく時、制作は佳境を迎えてきているのです。

赤塚祐二 AKATSUKA Yuji

1955年 鹿児島県生まれ、1981年 東京藝術大学大学院美術研究科修了、1996年 本学着任
 [主な個展] 1983年よりコバヤシ画廊(東京)、鎌倉画廊(東京/神奈川)、村山画廊(東京)、
 ガレリア フィナルテ(愛知)、ギャラリー米津(東京)、Mizuho Oshiro ギャラリー(鹿児島) 他
 [主なグループ展] 1992年「現代美術の視点-形象のはざまに」東京国立近代美術館(東京)
 1994年「現代美術の展望-VOCA展'94-新しい平面の作家たち」上野の森美術館(東京)
 1995年「視ることのアレゴリー: 絵画・彫刻の現在」セゾン美術館(東京)
 2012年「抽象と形態-何処までも顕われないもの」DIC川村記念美術館(千葉)
 2019年「MOMATコレクション: 所蔵作品展」東京国立近代美術館(東京)



上:「suspense20」 218cm×291cm キャンバスに油彩 2020年制作

下: 写真正面:「suspense17」 194cm×259cm キャンバスに油彩 2021年制作



赤塚祐二 教授

授業紹介

武蔵野美術大学には、自身が所属する学科別の専門科目のほかにも、様々な授業科目があります。その授業内容の一部をご紹介します。

文化総合科目(全学共通科目)／博物館に関する科目

[造形総合科目(造形構想基盤科目)] 他学科が開設する授業に参加し、自分の専門とは異なる領域を学ぶ科目です。

[文化総合科目(全学共通科目)] 全学科を対象とした、幅広い分野・領域について学ぶ科目です。

[教職に関する科目・博物館に関する科目] 教員免許状・学芸員資格取得希望者が履修する科目です。

文化総合科目(全学共通科目)

健康と身体運動文化演習(フィットネス)

身体運動文化研究室

北徹朗 教授

この授業では、身体や身体運動に関する様々なデータを収集・分析しています。授業前半で行う骨密度や筋肉量の測定データには相関関係があります。強い骨には筋肉が付きやすいということを理解し、栄養バランスだけでなく、摂取のタイミング、どのような運動が筋肉づくりや骨密度向上に有用性が高いかなど、実践を通して学修します。

例えば、加齢に伴い最も体力低下が認められるのは「バランス能力」です。この能力の体得にミニセグウェイを使ったりしていますが、乗車前後で受講生のバランス指標データは著しく向上します。鍛練のなきつい運動でなくとも、楽しい身体活動で機能が向上して行くことを体感して頂きながら授業を進めています。



鷹の台キャンパステニスコートでのミニセグウェイを使った授業

博物館に関する科目

博物館実習I

教養文化・学芸員課程研究室

加藤幸治 教授

「博物館実習I」はキュレーターとしてのスキルを磨くために、展覧会やワークショップ等を企画・運営・実施する実習科目です。学芸員課程は、造形学部の各学科(芸術文化学科を除く)の学生が結集するため、それぞれの学生が学科の特性に応じたスキルを発揮すると、思わぬチームワークが生まれます。例えば展覧会を作るとき、日本画・油絵・版画・彫刻といったファイン系の学生が作品の鑑賞文を作成し、デザイン情報・基礎デザイン・視覚伝達デザインの学生がポスターや展示関連のビジュアル、映像等を担当し、建築が展示室の図面を引き、空間演出デザインの学生が作品のイメージで展示室内を演出したり照明を担当したりし、工芸工業デザインの学生が展示什器を作成する…、そんな“アベンジャーズ感”が、この科目の最大の魅力です。



上：学生企画の展覧会の準備風景

下：キャンパス内での民俗資料を使った野外展示

column 1 ムサビ生の卒業後の活動をご紹介します。

むさびと 武蔵美人

“むさびと”とは武蔵野美術大学を卒業し各方面で活躍している人達のこと。
企業への就職、独立、制作活動……、形は違えど皆社会に出て頑張っています。
このコラムでは企業で活躍する若手の“むさびと”を取り上げ紹介しています。
ムサビ生の卒業後の可能性や広がりを発見してください。

媒体の歴史やブランド力にあぐらをかかず フットワークの軽い編集者でいられるように

株式会社誠文堂新光社『アイデア』編集長

西 まどかさん（2013年大学院造形研究科芸術文化政策コース修了）

大学院の頃、美術館の学芸補助として展覧会図録の校正作業のお手伝いをしていた経験をきっかけに、修了後は美術系の出版社で編集アシスタントとして働き始めました。先輩編集者の紹介で誠文堂新光社へ転職してからは、雑誌『アイデア』の編集を担当しています。創刊以来、グラフィックデザインやタイポグラフィを主なテーマとしてきた雑誌ですが、最近ではより広い分野を“デザイン”の視点から読み解くことが求められている気がします。ムサビで美術やデザイン全般を学んだことを雑誌編集にも生かしていくという気持ちは、入社当初からの自分のテーマです。編集部のスタッフは編集長の私ともう1人だけ。デザインやアートディレクションは外部の方をお願いしていますが、広告営業も自分たちで行い、企画立案からデザインや原稿執筆の依頼まで、すべて任されています。多岐にわたる編集業務において大切にしているのは、自分の好きなもの、大事なものを自覚すること。情報があふれ、猛スピードでトレンドがうつろう現代社会の中で、そうした判断の軸を持つことが編集者として大きな強みになると思うからです。ムサビでは芯をもって何かをやり遂げようとする人、自分の意思をかたちに変える発想力と行動力を持った人にたくさん出会いました。あの雑多でエネルギッシュな場で学んできた1人として、自分も媒体の歴史やブランド力にあぐらをかかず、フットワークの軽い編集者でいられるように頑張りたいです。



「越境」をキーワードに、世界とつながる邦訳海外マンガの魅力を紹介した『アイデアNo. 393』（2021年4月号）。西さんは年4回刊行されている『アイデア』をはじめ、デザイン書の編集も担当している。





特集2

在学生保護者向け教育懇親会を開催！

新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となっていた、在学生保護者向け教育懇談会を2022年度オープンキャンパス実施日である、7月16日に開催しました。

3年ぶりの開催となった今回は、本学の教育紹介、近年の就職動向に加え、課外活動（産官学共同プロジェクト、地域連携プロジェクト、大学連携、美術・デザインの普及・振興）を紹介。ご参加いただけなかった保護者の皆様向けに、当日の概要をお伝えいたします。

学長挨拶

困難な中でも確かに存在する ムサビ生の『創造の持久力』

武蔵野美術大学 学長 長澤忠徳

美術大学ではキャンパスに来て何かを作ったり、先生や仲間と話すことが大事です。しかし、新型コロナウイルスの感染が拡大する中、我々はそれをどう実現するかということに腐心して参りました。そこで、2020年の6月には学事予定をすべて組み替え、細心の注意を払いつつ、学生をキャンパスに入れて制作活動等ができるようにしました。

1年目は作品のクオリティが落ちるのではと心配でしたが、学生は例年以上の成果を卒業・修了制作展で披露してくれました。「いつも以上にすごい」という多くの評を聞いて思いついたのは『創造の持久力』という言葉です。美術大学では、“持久力”というものを美術教育の中で育てているんだと確信が持てました。これもひとえに、保護者の皆さまが学生をサポートし、理解を示してくださったおかげだと思います。

来年4月からは油絵学科 版画専攻を『グラフィックアーツ専攻』に名称変更します。そういった新しいチャレンジをこのコロナ禍でも続けていきます。100周年にむけて我々も努めて参りますので、これからもご支援、ご理解のほど、何よりも学生諸君のバックアップをお願いいたします。



2022年7月16日 [土]

午前の部
11:00 - 12:10
午後の部
13:30 - 14:40

タイムテーブル

1 学長挨拶
5分

2 本学の教育紹介
(榊山造形学部長)
15分
本学の教育紹介
(篠原映像学科主任教授)
15分

3 就職活動について
(キャリアチーム+卒業生)
15分

4 学生の課外活動について
(社会連携チーム+学生)
15分

* 午前の部・午後の部ともに
内容は同様となります



本学の教育紹介

**安全と安心をいかに担保しながら
授業を展開するか**

造形学部長
榊山祐和

安全を第一に考えながら質の高い授業を展開するため、オンライン授業を美術大学の実技授業にどのように取り入れるか等、様々なことに取り組みました。2020年6月には学事を大きく変更し、オンライン授業導入にあたって実技授業を補完するための補講期間を設けました。2022年後期は、実技は対面、座学・講義はオンラインを継続したハイブリット授業を検討しています。また、コロナ禍で孤立した学生たちと少しでもコミュニケーションを取ることで、安心して大学で勉強できる環境作りを心がけています。



本学の教育紹介

**ビジネスにおいて重要視される
デザイン思考・アート思考**

造形構想学部 映像学科主任教授
篠原現行

今、ビジネスの場面でデザイン思考やアート思考が取り入れられています。「答えのない未来では、今までのような論理的思考だけでは物事が解決されない。デザイナーやアーティストの、答えのない物事に向けた思考プロセスが重要だ」と。ビジネスではそれを社会の問題解決や雇用に応用している…そんな状況を知り、いわゆる造形の力、創造の思考力を世の中のビジネスに役立てようと、2019年にクリエイティブイノベーション学科を開設しました。学科として専門的な教育をしているのは、美大の中でムサビだけです。



就職活動について

**ムサビ生の新たな価値を
いかした就職活動**

学生支援グループ キャリアチーム
西 崇弘

2020年度の就職活動は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、就職率が8割弱まで落ち込みました。しかし、企業の採用方式がオンラインに切り替わっていくにつれて、就職率は9割台まで回復しました。キャリアセンターでもコロナ禍の就職活動に対応し、オンラインでの情報発信に力を入れています。近年の傾向としては、職種をデザイナーなどの専門職に限定せず、経営や企画などの総合職にチャレンジする学生が増えています。授業のなかでグループワークを経験していることも企業からの評価が高く、ムサビ生の希少価値はさらに高まっています。



就職活動について

ムサビでの経験が仕事に直結

造形学部 芸術文化学科 2018年度卒業
江間祥子

私は新卒でフォントメーカーに就職後、株式会社マガジンハウスに転職し、現在は雑誌「GINZA」の編集を担当しています。就職後に実感するのは、ムサビで得た経験は1つも無駄になっていないということ。学生時代の時間のほとんどを課外活動に費やしていました。数多くのインターンに参加し、自分が本当にやりたいことを見つけることができました。また、サークル活動で知り合った他学科の仲間には、今でも仕事の依頼をする機会があり、当時の経験や出会いが貴重な財産になっています。



学生の課外活動について

経験の幅を広げていく社会連携活動

大学企画グループ 社会連携チーム
ドル萌々子

社会連携チームでは、地域社会と連携をはかりながら課外活動を行っています。地域に密着してまちづくりを推進する「地域連携プロジェクト」、企業や自治体などさまざまな学外機関と共同研究を行う「産官学共同プロジェクト」など活動は多岐にわたります。新潟県でわらを用いたオブジェを制作する「わらアートまつり」や、東京工業大学と連携しながら開催する「学生交流」などが一例です。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、ワークショップの活動は実施できない状況が続きましたが、今年度からは3年ぶりに実施を再開していく予定です。



学生の課外活動について

**紆余曲折あったどり着いた
「本当にやりたいこと」**

大学院造形研究科 美術専攻 油絵コース2年
井下紗希

私は学部の2-3年生の頃に、さまざまな課外活動に参加していました。企業のインターンや小学校で実施するワークショップに参加し、絵本編集者や美術教諭になりたいと思うように。しかし「就職したら絵が描けなくなるかも」という不安を抱き、改めて自分の進みたい道を見つめ直したところ「自分は油絵が好き」という原点に戻り、油絵学科の大学院に進学することを決めました。こうしてさまざまな経験を通して本当に自分がやりたいことを見つけられるのは、ムサビの学ぶ環境があってこそだと思います。

在学生保護者向け教育懇親会の様子は、YouTubeにて公開中です。
以下リンク先よりご覧ください。
<https://www.youtube.com/watch?v=xkVtHgCskwQ>



NEWS 1

インフォメーション

油絵学科版画専攻が2023年4月新入生から油絵学科グラフィックアーツ専攻に名称変更
 本学の油絵学科版画専攻は、2023年4月から油絵学科グラフィックアーツ専攻に名称を変更します。

浮世絵や数々の歴史的出版物に代表されるように、版画は美術作品の領域を超え、「社会とつながるメディア」として人々の生活に関わってきました。絵本やイラストレーション、写真、映像、立体など、アナログやデジタルを問わず、あらゆる複製メディア表現にその規範を広げる中、油絵学科グラフィックアーツ専攻では積み重ねられた版画の「伝統」に向き合うとともに、版画を起点とした「現代」の美術表現への展開を視野に入れ、アートの領域とデザインの領域が多層的に重なり合う学びの新たな領域へ挑戦します。

詳細は、以下グラフィックアーツ専攻特設サイトよりご確認ください。

<https://ga.musabi.ac.jp/>



令和4年度入学式を挙行

2022年4月4日、令和4年度入学式が挙行されました。今年度は、新型コロナウイルス感染症への対策を講じ、対象学科を分け、午前部・午後部の2部制での実施となりました。式典の後は、新入生向けに学科ごとのガイダンスが実施され、学生証の交付が行われました。



2021年度事業報告および2022年度事業計画を公開しました
 以下webサイトよりご確認ください
<https://www.musabi.ac.jp/outline/disclose/report/>



2022年度予算を公開しました
 以下webサイトよりご確認ください
<https://www.musabi.ac.jp/outline/disclose/financial/>



オンラインオープンキャンパスを開催

2022年6月11日-12日にオンラインにてオープンキャンパスを開催しました。各学科の教員による学科説明や、学長や学生によるトーク、職員によるガイダンスが実施されました。各学科の説明および職員によるガイダンスは、本学 YouTube にて公開中です。

以下「武蔵野美術大学 Musashino Art University」チャンネルよりご覧ください。

<https://www.youtube.com/channel/UCk-Xv0rWz4Nm5cRtcKIGR7Q>



芸術祭を開催（予定）

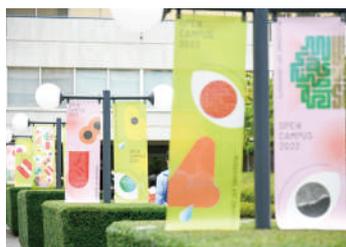
2022年10月28日-30日に鷹の台キャンパスにて芸術祭を開催します。2020年度は開催中止、2021年度はオンラインでの開催となったため、実開催は2019年度以来3年ぶりとなります。詳細は今後芸術祭webサイトにて公開予定です。ご参加には事前予約等が必要となる可能性もございますので、ご来校前に必ずwebサイトをご確認ください。

https://www.musabi.ac.jp/student_life/event/festival/



オープンキャンパスを開催

2022年7月16日-17日に鷹の台キャンパスにて来校型オープンキャンパスを開催しました。教職員・学生への相談会や、学内ツアー、トークイベントやワークショップが開催され、多くの受験生が来校しました。

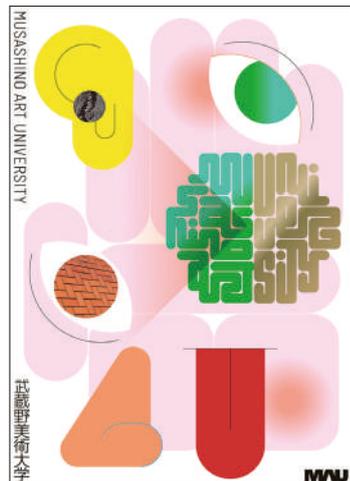


2022年度イメージポスターを公開しました

2022年度大学イメージポスターおよびコンセプトを公開しました。イメージポスターのアートディレクターは、本学卒業生（大学院造形研究科修士課程デザイン専攻視覚伝達デザインコース修了）で、株式会社ラボラトリーズ代表取締役、視覚伝達デザイン学科講師の加藤賢策氏です。

テーマ：「感覚おぼけ」

コンセプト：「自分の感覚を拡張して世界をいろんな方法で見ることができる力。それは美大で得られる知性のひとつだと思います。はたから見ると奇妙に映る時もありますが、それでいいのです。」



令和4年度卒業・修了制作展開催（予定）

2023年1月13日-16日に鷹の台キャンパスにて、1月20日-22日に市ヶ谷キャンパスにて令和4年度卒業・修了制作展を開催します。市ヶ谷キャンパスでの開催は、クリエイティブイノベーション学科1期生が4年次となった今年度が初となります。詳細は今後大学webサイトにて公開予定です。ご参加には事前予約等が必要となる可能性もございますので、ご来校前に必ずwebサイトをご確認ください。

https://www.musabi.ac.jp/student_life/event/degree_show/



* 2021年度会場風景

本学関連施設展覧会情報

2022年後期の予定

美術館

大学美術館として美術作品やデザイン資料などの収集と保存、データベースの構築、展覧会の企画、開催、図録の刊行などの活動を行っています。

武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス内 <https://mauml.musabi.ac.jp/museum/>

月・火・木・金〔祝除く〕12:00-20:00

土・日・祝 10:00-17:00

* 10月24日〔月〕以降は11:00-19:00

* 10月28日〔金〕は芸術祭開催にともない10:00-17:00の開館となります。

* 会期・時間を変更、あるいは予約制を導入する場合があります。最新の情報は右記webサイトをご確認ください。



みんなの椅子 ムサビのデザインVII 後期 9月5日〔月〕-10月2日〔日〕

原弘と造型：1920年代の新興美術運動から 9月5日〔月〕-10月2日〔日〕

黒川弘毅——彫刻／触覚の理路 10月24日〔月〕-11月20日〔日〕

AGAIN-ST ルーツ／ツール 彫刻の虚材と教材 10月24日〔月〕-11月20日〔日〕

12月5日〔月〕-12月24日〔土〕

助教・助手展2022 武蔵野美術大学助教・助手研究発表 12月5日〔月〕-12月24日〔土〕

民俗資料室

民俗資料室は民俗学者・宮本常一〔1907-1981〕〔1965-1977本学教授〕の指導により

収集された約9万点の生活造形資料をコレクションの中心としています。

収蔵資料の活用と公開を目的に企画展を開催しています。

武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス内 <https://mauml.musabi.ac.jp/folkart/>

収蔵庫見学 火・木

* 最新の情報は右記webサイトをご確認ください。

* 展覧会の開館日時は、美術館開館日時に準じます。



民俗資料室ギャラリー展示30 10月24日〔月〕-11月20日〔日〕

デザインの素—民具から読み解く発想と造形(仮) 12月5日〔月〕-12月24日〔土〕

gallery αM

本学が運営するノンプロフィットギャラリー。ジャンルを問わず質の高い表現と可能性を有する

アーティストに作品発表の機会を提供すること、社会に斬新な価値を発信できるキュレーターに

展示企画の場を提供することの2点をコンセプトとしています。

東京都千代田区東神田1-2-11 アガタ竹澤ビルB1F <https://gallery-alpha.com/>

火-土〔祝除く〕13:00-20:00

* 会期や時間等に変更になる可能性があります。最新の情報は右記webサイトをご確認ください。



αMプロジェクト2022

判断の尺度〔ゲストキュレーター：千葉真智子（豊田市美術館学芸員）〕

vol.3 荒木優光

8月27日〔土〕-10月15日〔土〕

vol.4 大木裕之

10月29日〔土〕-12月17日〔土〕／23日〔金〕

vol.5 高嶋晋一+中川周

2023年1月14日〔土〕-3月11日〔土〕

* 上記展覧会以降の予定については決定次第webサイトにて発表いたします。

美術館

日・祝日も開館しています

今年度より展覧会会期中は日曜日、祝日も開館しています。開館日時は左側の記載を参照してください。これまで来館がむずかかった方々もぜひこの機会にお越しください。みなさまのご来館を心よりお待ちしております。

なお、水曜日が休館となりますのでご注意ください。最新の情報は、webサイトをご確認ください。

『大辻清司アーカイブ フィルムコレクション』第6巻 刊行のご案内

写真家大辻清司（1923-2001）の創作活動をほぼ網羅する当館所蔵の特別コレクション「大辻清司アーカイブ」。大辻が撮影したフィルム原板の内容を明らかにする目録シリーズ「大辻清司アーカイブ フィルムコレクション」の第6巻では、1969年2月に開催されたアート&テクノロジーの祭典「クロス・トーク／インターメディア」のリハーサル風景を撮影したフィルムを取り上げています。通信販売でもお求めいただけます。

<https://mauml.musabi.ac.jp/news/22044/>



民俗資料室 収蔵庫見学のご案内

民俗資料室では、火・木曜日に収蔵庫の一部を一般公開しています。見学の際は、開室カレンダーをご確認の上お越しください。5名以上のグループでの見学は、事前にお申し込みが必要です。詳しくは民俗資料室のwebサイトをご覧ください。



